

発行 環日本海学会事務局

京都府舞鶴市字南田辺1番地 舞鶴市西総合会館4階 京都・まいづる立命館地域創造機構内 〒624-0853

電話 0773-78-1080 / FAX 0773-78-1078 / 電子メール jsrs@mirec.org / URL http://www.mirec.org/jsrs/

今号のヘッドライン

【1面】学会名称に関する会員意向調査結果報告

【6面】会員情報

【4面】総会・理事会・常任理事会議事

【7面】事務局からのおしらせ

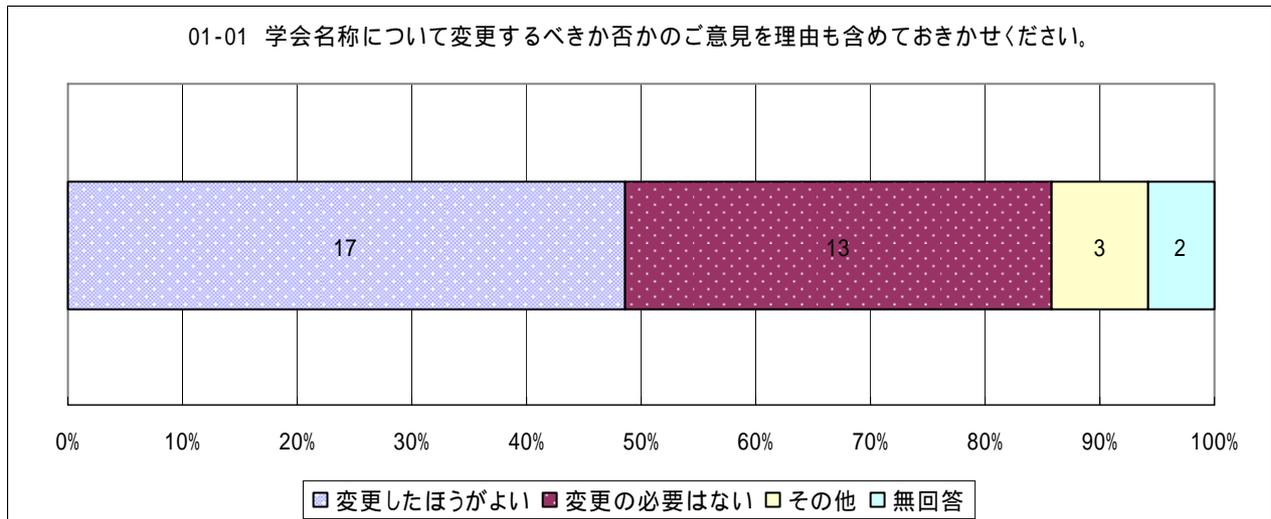
第5期第1回常任理事会報告

学会名称に関する会員意向調査結果報告

環日本海学会つうしん第24号に同封させていただきました「学会名称に関する会員意向調査」の集計結果がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

なお、配布数:337に対し、回収数:35(10.39%)でした。ご協力いただきました会員諸兄にお礼申し上げます。

学会名称について変更するべきか否かのご意見を理由も含めておきかせください。



「変更したほうがよい」とする理由

- 国際交流をしやすくするためには変更が必要
- 対象領域の広がり、世間の関心の変動
- 余計な摩擦を起こさない方がよいから。
- 「世界地図」の表記上「日本海」を変える必要はないが、国際的な学术交流団体として、「日本海」という呼称に異議を唱える国の研究者との協調を第一義に考慮すれば、「日本海」という名称に固執しないほうがよいのではないかと思います。
- 成立の歴史と日本の視点が明確に示される
- 地域名の範囲が狭い。現実とのギャップが大きい。
- 環日本海は研究分野の幅を誓約しているケースがある。韓国などの日本海に対する呼称問題。国内における北東アジア又は東北アジア学会立ち上げの動きがある。
- はじめ本学会は、環日本海地域を視野においていたが、現在では東アジア内陸部まで広くカバーする国際学会であるから、日本海にこだわる必要はなくなったと考える。なお、対象地域として中央アジア、東南アジアとの境界が問題であるが、あまり厳密に考えずダブっている部分があってもよいと考える。
- 国際化時代、現在の名称はやはり無理がある。
- 日本海に面した地域の学会という印象を与えるから。より対象範囲を広くした方がよい。
- 「日本海」呼称問題の存在。
- 他者(他民族)の痛みを共有することがどうも必要だと判ってきた
- 「環日本海」と「北東アジア」の2つを同時に示すために

変更したほうがよい。環日本海を含む北東アジア地域という地域の広がりアピールすることができ、学会の方向性と発展性を示すことにつながるから。しかしながら、環日本海圏を構成する日本海沿岸地域の各々のアクターが推進している地道な活動が北東アジア地域の交流

の原点であることから、「環日本海」という表現(象徴)は残す必要があると考えられる。

- 韓国その他からみてより普遍性が確保される名称とすることが妥当と思われます。

「変更の必要はない」とする理由

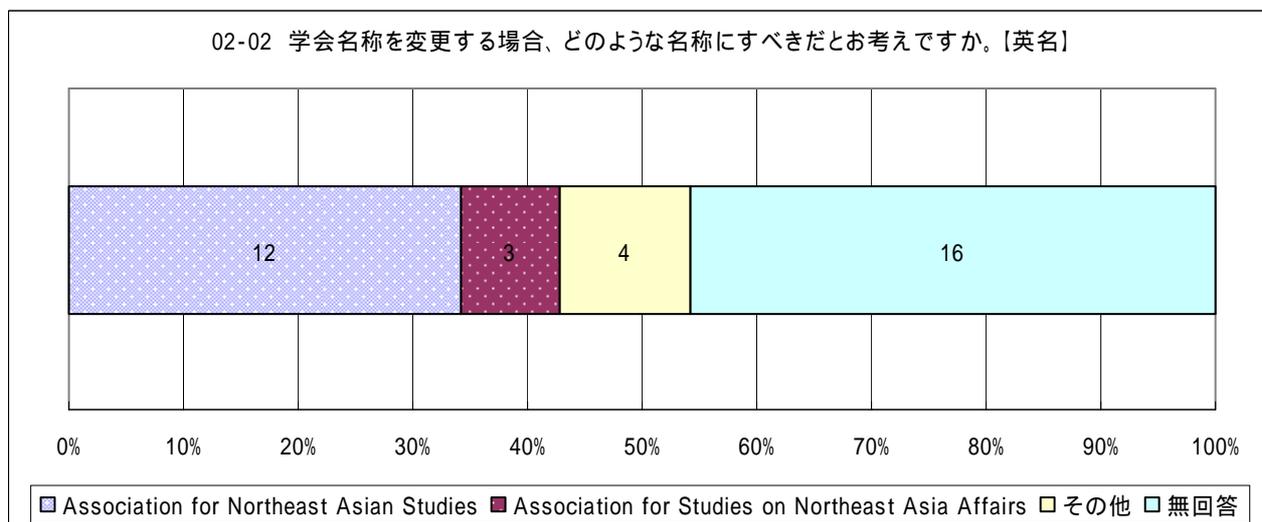
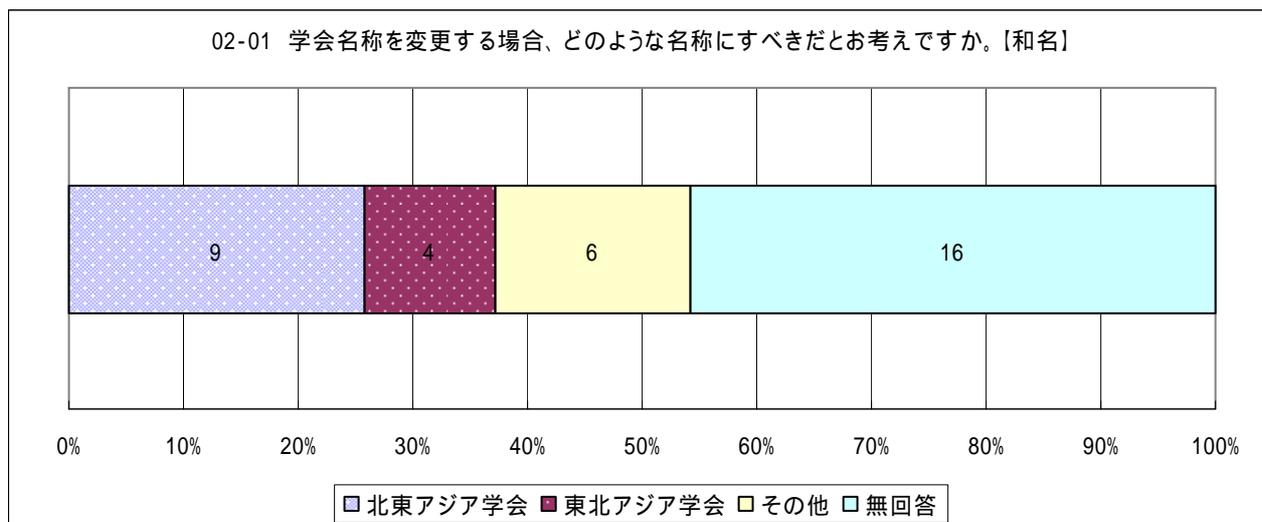
- 日本海の公式呼称が変更されない限り現名称でよい
- 「韓日本海学会」は冷戦が終わって日本海対岸諸国・地域との経済交流の発展が期待された時期に、日本海側地域の太平洋側地域に対する経済発展の遅れを何とかしたいと言う日本海側地域の願望を背景に発足しており、学会の名称をかえると言うことは、その原点を離れることを意味するので望ましくない。また、今後日本海を介した交流は益々発展するであろうし、発展させなくてはならないと言う事情も考慮する必要があり、日本海という文言がなくなることは望ましくないと考える。
- 「環日本海」学の構築をめざした学会として発足したはず
- 変更する理由がない
- 日本海の呼称についての議論が未だ深められていないように思われる。環日本海平和学会では、対象範囲を狭めるような気がする。
- 「海」域に着目した名称がユニークなのであって、「アジア」等の名称ならば、他にも研究交流の場がある。
- 本来、「環海」という発想が、この地域 - 「北東アジア」と称されようとしている地域 - をひとつの地域的まとまりとして浮かび上がらせてきたはず。学会名から「海」が消えることは、「環海」の発想から遊離してしまうことにつながると考える。
- 伝統にもなりつつある。
- 環日本海学会の朝鮮語名は「環東海学会」となっており、北東アジア諸国との交流において、名称が問題になることは少ない。他方、環日本海運動をはじめとして、本会の名称は北東アジア研究の歴史を示すものであり、少なくとも2006年の大会までは現状のままとすべきである。(会場が環日本海運動の盛んであった地域で行なわれるため)
- 環日本海学会でスタートして10周年。これからも環日本海学会の愛称で続けていただきたい。
- 日本海の名称にこだわるべき
- 変更する理由が見当たらないから。変更する場合は、退会致します。

その他のご意見

- 「環日本海研究」最新号で述べられている学会創設に献身された諸先生方の初心およびこれまでの学会活動の独自性、個性を貫く必要性。近年の韓国による日本海呼称問題に過度に配慮する必要はない。他方、研究対象地域の拡大の可能性(中央アジア、モンゴル、西シベリア等へ)に考慮する必要性および国内的には太平洋側の人と研究を積極的に呼び込む必要がある。とりわけ、前者に格別のご配慮をお願いできれば幸いです。結果を問わず、決定には快く賛同します。
- いずれは変更の必要が生じようが、その前に学会らしい科学的調査と根拠づけが必要。充分な根拠づけなしの変更は、学会としての見識を問われる。また、これまで取沙汰されている名称はいずれも迫力に欠ける。また、「2」の理由で、「海」という言葉を残したい。
- どちらともいえない。日本海を取り巻く地域研究という意味での「環日本海学」と、国際的な地域研究としての「北東アジア学」とは、かなり立脚点が異なっていると考える。「環日本海」や「環東海」という表現は、ポスト冷戦期における「ポスト環太平洋」「ポスト環黄海」だったのだと思う。したがって、「環日本海」「環東海」という表現には、「第二国土軸」の「人間の安全保障」のあり方、やり方に関する学究の含意があるのだと感じる。一方、「日本海」名称問題が、隣国との交流の阻害要因となり、それが学界にも影響するというのはいささか遺憾だが、開かれているという水平的な印象も大切だと思う。
- 「日本海」の名称は、コリア以外の国際社会では定着しているし、日本海沿岸地域の会員が多いことから学会名称として維持したいところであるが、韓国との提携が重

要度を増しているために、変更もやむをえない。

学会名称を変更する場合、どのような名称にすべきだとお考えですか。



名称に関するご意見

- この表現(北東アジア)の方が majority、(英名は) simple なほうがよい。(和1、英1)
- 日本では北東アジアという名称は、東北アジアよりも市民権を得ている。Northeast Asiaをそのまま北東アジアとするほうが妥当。地理的概念と考えれば北東が自然。(和1、英1)
- 和名については、北東アジアが日本においても比較的多く使われているため。英名は短いほうがわかりやすいため。(和1、英1)
- 地勢学的に「東アジア」という用語が定着している状況(例えば「東アジア共同体」)を考慮すると、東アジアの北部地域というフィールドの設定。この方が学会の研究動向を反映しているように思われる。 学際的な研究団体としての実体を表現しているように思われる。(和1、英2)
- 東南アジアに対する東北アジア(固執するものではないが)(和2、英1)
- 漢字文化圏では、東西を先に、南北を後ろにする不動の語順が確立されており、「北東」は英語の直訳で「小さな脱亜入欧」だという考えに賛同しました。(和田春樹「呼び名に潜む大きな溝」、『朝日新聞』2003年11月11日夕刊)英名については、1が一般的でよいと思います。(和2、英1)
- 漢字文化圏の中では、「東北アジア」が普通になっている。 朝鮮半島、中国、モンゴルでは、いずれも「東北アジア」と表記している。 日本国内でも必ずしも

- 「北東アジア」に統一されているわけではなく「東北アジア」も使われている。(和 2、英 1)
- アジア北東部を主な対象とするとき、対応するアジア東南部がある。この地域はいま「東南アジア」という呼び方でほぼ統一されているから、それに対応する形で「東北アジア」とするのがよいと考える。(和 2、英 2)
 - 「環日本海・北東アジア学会」東北アジアより北東アジアのほうが多くの人にとってわかりやすい。学会の目指す方向性について多くの人にコンセンサスを得られることができると考えられるため。東北という地域は中国の一部のみを示しているようにも思え、環日本海圏を構成するであろう地域を網羅していないように思われる。また、多くの人にとって、東北アジアとは具体的にどの地域をさすのかわかりにくいのではないかと。(和 3、英 1)
 - 「日本北東アジア学会」、「Japan Association for Northeast Asian Studies」。韓国に「韓国北東アジア学会」があるから。(和 3、英 3)
 - 環日本海 = 東海学会、Association for the Japan = East Sea Rim Studies。「海」というキーワードを残すことにより、類似の他学会との違いを表現したい。また折衷案だが、現状では折衷的であらざるを得ない。今後、学会としての国際化がすすめば、これはこれで意味があるかもしれない。相互の立場を尊重しあうという意味で。ただし、英文標記としてこれがいいかどうかは検討を要しよう。(和 3、英 3)
 - 「環日本海学会」「Japan Association for Northeast Asian Studies」。和名と英名が必ずしも一致する必要はないのではないかと。(和 3、英 3)
 - 「現代北東アジア学会」。1.現代 - 歴史的段階の意味ではなく、「現在」contemporary という意味で。2.「東北アジア学会」について、1989 年以来、「近現代東北アジア地域史研究会」が活動していることから誤解を避けた方がよいと思われます。(その他、その他)
 - 内海協力や内海文化への配慮があるといいのではないかと。但し、より広い学会とするならば、1.の「北東アジア学会」でも良いかと思う。(和 3、英無回答)
 - 和文名称と英文名称は必ずしも一致しなくてもよい(和無回答、英 1)
 - 英語の Northeast が東北になるのはよろしくない。英語名は短いほうがよい。(和無回答、英無回答)

総会・理事会・常任理事会議事

第 5 期第 1 回常任理事会報告

第 5 期第 1 回常任理事会が、12 月 17 日(土)14:00 から、キャンパスプラザ京都にて、常任理事計 4 名が出席して開催されました。議題は以下の通りです。

[1] 事務局消息

山田事務局長から、2005 年 10 月から当日までの事務局の主な業務内容が報告された。

[2] 10 周年記念出版事業

佐渡友常任理事から、別紙に基づき、10 周年記念出版事業の準備状況および基金の寄付状況が報告された。

- 国際関係、経済、人物、自然、自治体といった分野について、それぞれ 10-15 項目を設定することになっている。
- 執筆者は百数十名になる予定。

- 本のタイトルについて、出版元から、「環日本海」よりも「北東アジア」を含んだタイトルにしたほうが売れるとの助言を得ている。

[3] 北東アジア研究交流ネットワーク

柑本常任理事から、北東アジア研究交流ネットワーク設立準備会の模様が文書で報告された。

1 月 28 日の設立総会には、林堅太郎会長が出席する方向で日程調整することとなった。

[4] 第 20 期日本学術会議

山田事務局長から、第 20 期日本学術会議の動向について報告があった。

これまでの「登録学術研究団体」制度が廃止され、第 20 期から「協力学術研究団体」制度が新設された。10 月 17 日に

黒川清会長から、日本学術会議より旧登録学術研究団体に対して、新設の協力学術研究団体への移行を要請する文書が発信されている。

これに対して、学会事務局では、当該移行の趣旨について、日本学術会議事務局企画課に確認した。

1. 今回の制度変更の含意は何か。

これまでの日本学術会議と登録学術研究団体の垂直的な関係性から、日本学術会議の社会的責任を果たすことを強化するために、水平的な関係性としての協力学術研究団体への移行である。

2. 環日本海学会は名称変更の可能性について現在検討しているが、今回の移行に関わって、不利益を被ることはないか。

現在、旧登録学術研究団体に対して協力学術研究団体への移行を依頼しているところである。環日本海学会が名称変更される可能性があるにしても、一旦は現在の名称で移行した上で、名称変更した段階で、名称変更の届出を行なえば、問題はない。

3. 名称変更の届出を行なうにあたり、日本学術会議の活動スケジュールとの関係で、適期はあるか。

特にない。いずれに時期に名称変更の届出を行なっても、不利益を生じることはないし、日本学術会議の活動スケジュールの上でも特にこの時期に届出を行なってほしいという時期はない。

以上のやりとりを踏まえて、学会事務局では、当該移行手続を行なった。

[5] 学会名称問題について

山田事務局長から、過日実施した名称に関する会員意向調査の結果について報告があった。

常任理事からの主な意見は以下の通り。

- 名称を変更するという論点だけでこの課題を克服していくのは生産的でない。改めて、本学会の総合学会、国際学会、学際学会としての性格を確認する必要がある。その上で、名称を英語名だけにするというのも選択肢として考えられるのではないか。
- 現在、活発に論文投稿や大会報告を行なっているのは、留学生であり、彼らが母国に帰った時に、権威ある学会として位置づけられるような活動と名称を追求すべきではないか。
- いわゆる「東北アジア学会」設立の動きへの対応とい

うだけではだめだ。学会のあり方の問題として考えなければならないだろう。

- ニューズレター「環日本海学会つうしん」で会員意向調査の結果をフィードバックし、さらに会員相互の意見交換を促すべき。
- 今回の会員意向調査に候補としてあげられていたもの、また、会員から調査を通して提案のあったもののほか、
 - International Association for Northeast Asian Studies
学会の国際性を強調
 - 国際北東アジア総合学会
学会の総合性、学際性を強調
 - 北東アジア国際地域学会
学会の国際性、学際性を強調
 - 北東アジア地域国際学会
学会の国際性、学際性を強調
 - 北東アジア共生学会
地域主体の「脱国家(国境)」と学会則にもうたわれている「平和志向」を反映
といった提案があった。

[6] 学会財政問題について

山田事務局長から、12月16日までの今年度学会財政の執行状況が報告された。

- 年会費の高額滞納者が63名・団体、未納額280.4万円にのぼっており、この金額は単年度の会費収入を凌駕するものである。
 - 歴代の事務局では、会費納付の励行を促す取り組みを行なってきたが、定常的な取り組みにはなっていない。
- 常任理事からの主な意見は以下の通り。
- 会員諸兄の危機意識を高め、学会経営の安定化を図る財務・会計システムの構築が必要。
企業会計と同様に、未納となった会費は債権として貸借対照表に計上すべき。
 - 高額滞納者については、大会勧告も含めた厳しい対応を行なう時期に来ているのではないか。
いきなり、大会勧告決議を上げるのではなく、1)滞納を精算して退会する、2)残額21,000円の水準に戻してもらい学会誌の発送などの会員サービスを受けられ

る滞納水準に復帰する、3)滞納が解消されるまで年会費を倍額で徴収する、といった選択肢を滞納会員に示し、選択を迫ってはどうか。

- 入会時の推薦者2名は、会費の滞納を行なうような者ではないことも含めて推薦しているはず。
- 会費収入だけでなく、投稿料など新たな収入源確保も検討してはどうか。
- 常任理事、推薦者の責任において、個別にあたらねばならないのかもしれない。

[7] その他

(1) 入会・退会の申請について

山田事務局長から入会・大会の申請状況について報告があった。今回は、出席理事が少ないため、承認の議決は見送

られた。

(2) 韓国東北亜経済学会年次大会派遣について

韓国東北亜経済学会(NEAK)から示されたエントリー期日が迫っているため、早急な対応が必要である。今回のNEAK年次大会のテーマに鑑み、報告者2名のうち1名は、龍世祥(富山大学)会員に依頼することとした。第5期新執行体制となった初年度であり、林堅太郎会長と山田一隆事務局長が参加し、もう1名の報告者を山田事務局長とすることとした。

後日、学会事務局から、龍会員に参加依頼を打診したところ、快諾を得た。

韓国東北亜経済学会 2006別紙年次大会

とき 2006年2月16-17日

ところ 成均館大学(ソウル)

会員情報

住所不明者

学会事務局では、日常的に会員のみなさまの連絡先・所属等の変更・更新を受け付けており、その追跡にも注力しておりますが、残念ながら、現在、以下の会員の連絡先が学会事務局で把握できておりません。会員のみなさまの中で最新の連絡先をご存知でしたら、学会事務局までご連絡いただければ幸いです。

杉谷 滋、蔡 承完、美野 久志、鈴木 英司、Valentina Grishina、于 文生、鄭 鉉錫

事務局からのお知らせ

[1] 会費納付のお願い

2006 年度の会費納付をお願いいたします。つうしん本号に同封の会費納付のごあんないで金額(過年度未納分がある方は併せてご請求申し上げます)をお確かめの上、同封の郵便振替払込票をご利用ください。なお、払込手数料は会員各位にご負担をお願いしています。ご了承ください。

郵便振替口座 00990-3-117008
環日本海学会

学会事務局移転に伴い、郵便振替口座も新しくなっています。当面(向こう 1 年間程度)は、旧事務局発行の払込票で入金いただいても対応できるように、旧口座も閉じずに新口座と併用いたします。

年会費	一般	7,000 円
	院生	3,000 円
	賛助	20,000 円
	特別賛助	100,000 円

なお、今年度請求分を含め、4 年度以上の未納がある会員には、学会誌第 11 号の発送を停止させていただいております。該当する会員諸兄には、学会事務局から別途告知を送付させていただいておりますので、それに従ってご対応をいただければ幸いです。

参考:環日本海学会会則 第 6 条「本会を退会しようとする者は、書面をもって退会を本会に通告すれば退会することができる。会費を 2 年間滞納した者は、理事会において承認の上、退会とみなす。」

[2] 学会設立 10 周年事業基金設立について

10 周年記念出版の特徴は、1)学会のこれまでの研究成果を集大成し、多くの会員を動員する、2)北東アジア地域に関する政治、経済、文化、歴史、環境などについて解説、3)一般読者にも読みやすい地図、図表、写真入りのビジュアルな「ハンドブック/事典」、というものを目指しています。

10 周年記念出版事業を行なうための基金の設立にご協力をお願いいたします。

会員一口 5,000 円

事業基金は、2005 年 10 月から 2006 年 9 月までの 1 年間で目標額 100 万円です。理事は 2 口以上、常任理事は 4 口以上をお願いいたします。

おひとり、何口でもお受けいたします。

寄付をいただいた会員には、1 冊進呈いたします。

基金振込先は、

郵便振替口座 00100-2-298110
環日本海学会設立 10 周年出版事業基金

学会費納付先とは異なります。

です。郵便振替払込票を同封していますので、ご利用ください(払込手数料は会員負担)。

10 周年出版事業に関するお問い合わせは、日本大学佐渡友哲担当常任理事までお願いいたします。